



お休みをきっかけに植物に興味

中学3年生の時に持病で長く学校をお休みしました。家でできることを何かやりたいと思い、家庭菜園を始めました。多少粗雑な世話でも元気に育つ姿や、その生命力に感動しました。学校での生物の授業も面白いと思っていたので、大学では生物を学んでみたいと思うきっかけになりました。

海と山のある環境で研究

実家から通える国立大学で生物を学べるところに魅力を感じ、富山大学の理学部に進学しました。生物全般に興味を持って理学部に進学しましたが、1年次に生物と名前の付く授業を色々受けてみて、植物に特に興味があると気づきました。現在はマメ科植物の染色体研究を行っています。

富山大学でしかできないことを

せっかくこの大学に来たので、ここでしかできないことをやりたいと思っていました。

1年次の春休みにマレーシアの短期留学に参加しました。高校では、学校行事でイギリス研修があるのですがコロナ禍で中止になりました。英語が決して得意とは言えませんが、そのことを過度に恥ずかしがらずに頑張りました。やってみようと思ったことには飛び込んでいこうと思いました。

大学3年生の夏、全学横断PBLに参加しました。全学横断PBLとは、富山大学の全学部の3年生が参加可能なプログラムです。様々な学部の学生がチームを組み、それぞれの専門知識を活かして、提示された課題に関して夏休みを利用して現地調査、事前調査を経て3日間議論してイノベティブな課題解決を目指します。

大学が設定したテーマと企業が設定したテーマがある中、「VR・ARを利用してUターン・移住を促進するには？」という課題が面白そうだなと思いテーマに選びました。

アクションを起こし、自分にも変化

「移住者の住環境に着目したサービスにより、移住促進を目指す」ことをミッションに掲げ、360度カメラで撮影した空き家の内観・外観や周辺のまち並みを空間データとして統合し、VRゴーグルを通じて移住希望者が現地の暮らしをより感覚的に体験できるサービスの構築を目指しました。

最初はメンバーが3人しかいないことで一人一人の負担が大きいことに不満がありました。課題に行き詰まると企業さんとミーティングで困りごとを相談しました。

自分たちでアクションを起こすことで手を差し伸べてくれる人も増えました。この活動に参加したことで、私自身のフットワークが軽くなりました。研究の間でも周りの人に助けを求めるのは悪いことではないなと思い、先生に質問や確認にも行きやすくなりました。



お世話になった高校の先生へ

今こうして好きなことに熱中できているのは高校の3年間はあったからだと思っています。持病がある私を様々な面で支えてくださり本当にありがとうございます。これからも無理しすぎず色々なことに挑戦していきたいです。